

世界の難民情報を伝える

# UNHCR NEWS

United Nations High Commissioner for Refugees

Number

4

NOVEMBER 1997



## Contents

Special Report

### 難民の子どもたちの生活 ソマリアから来たヒバクちゃん一家

ソマリア難民 課題をかかえる援助活動

In the Media

### 難民援助減らさないで

Campaign Report/Information

浄土宗「なむちゃんエイド」

(株)リンツコーポレーション 有志による継続的な難民支援

人類愛善会「愛善基金」

連合・愛のカンパ

創価学会青年平和会議 難民救済キャンペーン

石井好子さん シャンソンを通じて難民援助を

キャンプ・サダコの体験記が本に



UNHCR

国連難民高等弁務官日本・韓国 地域事務所

# 難民の子どもたちの 生活

## ソマリアから来た ヒバクちゃん一家

現在、世界には2280万人もの難民と国内避難民がいる。その8割が、女性と子どもたちだ。エチオピアにあるソマリア難民キャンプの一つラバッソも例外ではない。今号では子どもを中心にキャンプでの生活を紹介してみたい。



ヒバクちゃん一家。この日、お父さんは外出して留守だった。一番下の妹は、お母さんの腕のなかに。

午前6時30分、ヒバクちゃん(9歳)は、家族のために朝食を作り始めた。朝食はソルガム(こうりゃん的一种)の粉を水で溶いて薄く焼いたチャパティ。普通なら、それを甘いお茶につけて食べるのだが、この難民キャンプではここ3か月、砂糖は配給されていない。ヒバクちゃんはトウクル(注1)の中で鉄板を暖めて油を引き、家族7人分のチャパティを手際よく焼いている。彼女の側では6歳になった双子の弟たちが、穴のあいたポリタンクで作った車のおもちゃで遊んでいた。7時30分頃になると、市場へ出かけていた姉たちも戻ってきて、ヒバクちゃん一家の朝食が始まった。

ヒバクちゃんは、9人兄弟の上から5番目。3年前、ソマリア西部の町ハルゲイサから戦争を逃れて、このラバッソ・キャンプにやって来た。キャンプで一緒に暮らしているのは、両親と2人の姉、それに弟と妹が2人ずつの合計9人。もう2人の兄たちはまだハルゲイサに残っている。というのも、このエチオピアの難民キャンプでは、ちゃんとした教育を受けることができないからだ。両親は「男の子にはなるべく勉強できるチャンスを与えてやりたい」と思い、2人の子どもを送り帰したのだという。

### 口バの背にゆられて脱出

ヒバクちゃんにはもう2人、兄弟がいたが、ひとりは5歳の時、銃で撃たれて死亡し、もうひとりはこのラバッソキャンプに逃げてきた時に病気で亡くなっている。



エチオピアに逃げて来る前、ヒバクちゃんの両親はハルゲイサで食糧や生活用品を売る雑貨屋を営んでいた。しかし、戦争が始まるとすぐに2頭のロバだけを連れて、街を脱出した。ヒバクちゃんが6歳、一番下の妹又ミモちゃんは生まれてようやく3か月になった頃のことだ。まだ幼い子どもたちはかわるがわるロバの背に乗り、国境の向こうにあるエチオピアをめざした。

お母さんのシラッドさんは、脱出した時のことを振り返って「あの時は本当に恐かった。ハルゲイサの町では路上で死んでいる人をたくさん見ました。私たちは兵隊や強盗に見つからないように昼間は茂みに隠れ、夜、歩いて逃げたんです。安全なラバッソキャンプにたどりつくまで、5日間かかりました。でも、子どもたちはまだ体力がなかったので、病気にかかりやすく、結局、又ミモは亡くなってしまいました。私自身も妊娠5か月で、逃げてくる時、とても苦しい思いをしました」という。

## 学校も家事も一生懸命

ヒバクちゃんは、学校に行っている時以外は、家の仕事を一生懸命手伝っている。遊ぶヒマもないほどだ。お母さんは山羊の肉を売る商売をしており、あまり家事をする余裕はない。その分、ヒバクちゃんもお姉さんたちと一緒に、炊事や洗濯、それ

UNHCR



ラバッソ・キャンプから2kmの所にあるため池。子どもたちは水中にポリタンク(容量5リットル)を沈めて水を汲む。家族が多いと一日に何度も来なければならない。

に弟や妹の世話まで何でもしなければならぬ。中でも一番辛いのは、水汲みだ。キャンプから2キロも離れたため池から、ポリタンクで5リットルの水を毎日運ぶという。まだ幼いヒバクちゃんには大変な重労働といえる。

いくつもの家事をこなすかわら、ヒバクちゃんはキャンプにある私設のコーラン(イスラム教の經典。ソマリア人のほとんどはイスラム教徒)の学校に通っている。科目はソマリ語、アムハラ語(エチオピアの公用語)、アラビア語などの語学や地理、理科、算数などの一般教科、それにコーランの勉強もある。

このキャンプにはUNHCRとエチオピア政府が共同で運営している小学校もあるが、資金不足のため教室が狭く、キャンプの子どもたち全員を受け入れることができない。そのため、ヒバクちゃんのように私設の学校に通う子どもたちが多い。

「勉強は好きだし、学校に行くのは

楽しい。でも、将来何になりたいかなんてわからない。だって、どんな仕事があるのかわからないし、選ぶ自由だってないんだから…。だけどやっぱり、大きくなったら、何か仕事をしたいなあ」とヒバクちゃんはいう。

ラバッソキャンプで難民生活を始めて3年。ヒバクちゃん一家は、まだソマリアに帰る決心がつかない。お母さんば、もしも、ソマリアが平和になって、帰ってからちゃんと生活できるような誰かが援助してくれるなら戻りたいのですが…。でも今は、まだ無理でしょう」とあきらめている。

ヒバクちゃんの家族が、みんなそろって故郷で暮らせるようになるには、まだまだ時間がかかりそうだ。

UNHCR



チャパティを焼くヒバクちゃん。円を描くように広げていくのがコツ。

UNHCR



一家の住むトゥクル。入り口の近くにあるのは、水汲み用のポリタンク。

注1 おわんの形をした家 アカシアの木の枝や6~7メートルの根を木の皮で結び合わせて骨組みを作り、その上に布や皮をかぶせる。バラバラにすればラクダの背にのせて持ち運びできるよになっている。



## ソマリア難民 課題をかかえる 援助活動

### 背景

「アフリカの角」に位置するソマリアでは、1988年頃よりシアドバーレ政権に敵対する勢力の活動が活発化し、91年、同政権は崩壊。しかし、新しい政府が組織された後も、政権内部の勢力争いはおさまらなかった。

やがて混乱が続く中、約60万人の難民が戦禍を逃れてエチオピアに流出した。その後、多くの人々が自発的にソマリアに帰国したが、1994年、ソマリア北西部の主要都市ハルゲイサで起きた戦闘で新たに約9万人の難民が発生したこともあり、現在も約28万人がエチオピアで難民生活を送っている。一方、ソマリア国内で治安の改善を見た地域もあり、UNHCRは小規模ながら難民の自主帰還をすすめている。

エチオピアに逃れた難民たちは、ソマリアとの国境に沿って東西に点在する8つのキャンプで生活している。男女の割合はほぼ同じだが、年齢構成では18歳未満の子どもたちが約半数を占める。

### 乏しい援助資金

ソマリア難民における援助活動の最大の問題は、資金の不足である。これは度重なる他地域での緊急事態に援助資金が必要であったことや、難民発生から9年の歳月が過ぎ、世界の関心がこの問題から次第に薄れてしまったためである。衣・食・住すべての面での資金不足がUNHCRの援助活動にもたらす影響は大きい。

たとえば、住居(トゥクル)の屋根に使うビニールシートは、1992年以来、5年間も配給できなかった。難民たちは食糧の入っていた布袋やビニールの切れ端で屋根を作り、急場をしのいできた。しかし、乾期には屋根の隙間から砂ぼこりが舞い込み、病気の原因となったり、逆に土砂降りの雨が降る雨期には住居の中が水浸しとなって、横になることもできな

いあり様だった。今年になってようやくUNHCRは、6万枚のビニールシートを発注することができたのである。

食糧の配給に関しては、昨年からWFP(世界食糧計画)による供給量が減らされた。WFPに対する各国政府の援助資金が削減されたため、これまでの配給内容を維持できなくなってしまったのである。現在の配給量は、一日一人当たり、ソルガム(こりゃん的一种)400グラム、植物油25グラム、砂糖10グラム、塩5グラム。しかし、この配給すら、滞ることがある。砂糖などは2~3か月に一度の割合でしか配給されていない。

### 難しい水の供給

資金不足もさることながら、難民の生活を厳しいものにしていくのは自然環境だ。特に水源の確保が難しい。

8つのキャンプがあるエチオピア東部は半砂漠地帯である。一年のうち、ほとんどは乾期であり、年に5回あるという雨期はそれぞれごく短期間に限られている。そのため、水の供給は生死にかかわる大切な問題となっている。

今年の3月、厳しい干ばつがこの地域全体を襲った。数百はあるというビルカ(ため池)もダムも、ほとんどすべてが干上がってしまったという。UNHCRの職員が訪れた時には、道路沿いに多くの人々が水を求めて立ちならび、わずかに残った水場には、地元の遊牧民が家畜を連れて殺到していた。UNHCRではエチオピア政府に働きかけ、首都アジスアベバからも、ディーゼルを運ぶトラックを調達し、このタンクを洗って給水車として使用した。幸い、4月になって雨期がおとずれたため、犠牲者を出すことなく、この危機を乗り切ることができた。

難民が一日に必要なとする水の量は一人最低15リットル。しかし、現実にはその3分の1しか供給できない。

1988年以来UNHCRは、NGO(民間援助団体)のCARE(ケア)と契約を結び、ハルチシェイク、

ダルワナジ、ケブリベア、テフェリベアの4つのキャンプに、1日の休みもなく給水車を走らせてきた。しかし水源地からキャンプまでの道のりは延べ百キロをこえる。荒れ地を切り開き、道路を建設するだけでも大変な作業であった。しかもトレーラーをつけた給水車は一度に2万4000リットルも水を積んでいるため、道路の傷みも激しい。常に補修作業をする必要がある。また、砂利や起伏の多い道路を走るの、給水車自体も故障しがちである。この給水活動だけでも、年間約200万ドル(1000リットル当たり8ドル)の費用がかかってしまう。

UNHCRはその負担を軽減するため、キャンプの周囲に浅井戸を掘り、水源の確保につとめてきた。その結果、2か所のキャンプでは、水が得られ給水車での配給は中止された。しかし、中には500メートル掘っても水が出ない場所もあった。また運良く水が出ても、塩分が強すぎて飲料水にならなかつたり、井戸を作るという方法だけではすべてのキャンプに水を確保できなかった。

他の手段として天水を貯めるハフィル・ダムの建設も行なわれてきた。低地に貯水池を掘り、そこへ水が流れ込むように水路を作る。激しい雨は一年のうちほんの数日だけだが、その雨水をダムに溜めておくのである。すでに3か所のキャンプ近くにハフィル・ダムが完成した。

厳しい自然環境下で暮らすエチオピアのソマリア難民。常に干ばつが起きる危険性があり、水源確保の努力が続けられている。



ラバツソ・キャンプ付近のため池。乾期(8月)で水は残りわずか。人々は、雨を待ちこがれていた。

# 難民援助減らさないで

## UNHCR幹部が本社に手紙



ルワンダのキガリ空港に着いた難民の子供たち—今年5月、玉置勝巳写真

●削減の背景  
「ぜひ、よろしくお願ひ  
します」  
8月4日、首相官邸を訪  
つさりと注文をつけた。

政府の拠出金削減方針に危機感

## 「国際貢献、大きく後退」

●削減の背景  
「ぜひ、よろしくお願ひ  
します」  
8月4日、首相官邸を訪  
つさりと注文をつけた。

だが外務省難民支援室の職員は「いや、三重苦です」と嘆きながら削減の背景を説明した。三重苦とはODAの削減で決定した政府開発援助(ODA)の10%削減の国連の義務的分



「UNHCRへの拠出金は、削減は非常に厳しい措置。日本の国際貢献の質が問われることになりま

## トロローラー氏の手紙の要約

日本政府の国連諸機関に対する任意拠出金削減は、難民に人道的な立場から保護と援助を提供している国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)にとって大きな打撃です。もし、この案が実施されると、難民がますます窮地に追い込まれることになるでしょう。

人道援助は日本が主導的な役割を果たしてきた重要な分野ですが、この分野における日本の国際貢献も大きく後退します。政策決定に携わる人々には、ぜひとも再考を促したいのです。

犠牲者を支援するための人道的介入の調整において国際社会はUNHCRに頼らざるを得ない事態が続いています。

その任務遂行のために、UNHCRは資金拠出国の継続的な理解と支援に頼らざるを得ないのです。日本は米国、欧州連合(EU)に次ぐ第3の拠出国としてUNHCRの活動を支えてきました。海外でUNHCRの事業を実施する日本の非政府組織(NGO)も、最近ますますその数が増えています。

日本は長年にわたり、人道援助において優れた役割を果たしてきました。ますます複雑化し相互依存の深まる世界において、この役割はぜひとも続けるべきではありませんか。絶望的な状況にある難民に対する援助は日本の支援にかかっているといえるのです。

(要約、原文は英語)

# ビッグ 追跡

担率の拡大(円安の三つ)。  
ODAの削減は政府・与  
野の財政構造改革会議(議  
長・橋本首相)の最終報告  
で方向付けられ、6月3日  
「ODAは前年度比10%の  
10%削減」と閣議  
決定。これで国際経済協力  
縮小の流れが確定的となっ  
た。

「UNHCRへの拠出金は、削減は非常に厳しい措置。日本の国際貢献の質が問われることになりま

こうした事情からUNHCRへの任意の拠出金を30・23%(約3億4千削減する動きになった。

外務省は「UNHCRの活動は人道援助であり、削減によって影響を受ける人はほとんどが弱者」との認識があり、「さまざまな方法で影響が最小限に抑えられるようにしたい」としているが難しい状況だ。

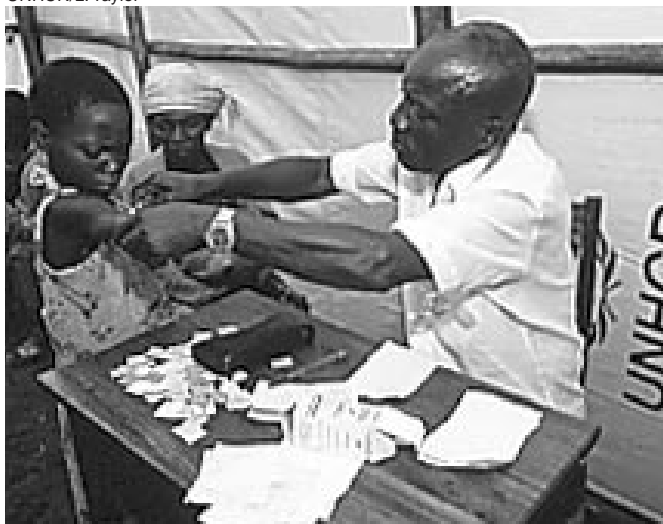
が、日本の分担率は今年の15・65%から来年は17・39%へ増加しそう。分担金はUNHCRや国連児童基金(ユニセフ)などへの任意拠出と違い、滞納が国際的に許されない。このしわ寄せが任意拠出金に及んだ形だ。それに加え、円安のためドルで支払う国際機関への拠出金は円建てでは目減りする。

# Campaign Report/Information

## 浄土宗 「なむちゃんエイド」

浄土宗では、「浄土宗新聞」の購読料の一部を世界の難民救援に役立てようと、1994年から毎年300万円をUNHCRに寄付している。4回目を迎えたこの「なむちゃんエイド」の贈呈式が4月に行なわれ、八木季生浄土宗東京事務所長から、浄土宗新聞を通じて寄せられた援助金が手渡された。この寄付は、内戦で隣国に逃れたルワンダ難民の援助に活用されている。

UNHCR/L. Taylor



新たに到着し、医療援助を受けるルワンダ難民（1996年12月、タンザニア）

## （株）リッツコーポレーション 有志による 継続的な難民支援

株式会社リッツコーポレーションでは、1991年10月より社員有志による難民募金約50万円を、毎月継続してUNHCRに贈っている。今年6月、

UNHCRジュネーブ本部のアルメイダ広報課長（当時）が平岡 浩幸取締役社長を訪問した。アルメイダ広報課長は、「社員一人ひとりの心のこもった支援により、数多くの難民の生命が救われ、難民の子どもたちが将来の夢と希望を持って生活している」と述べ、感謝の意を表した。

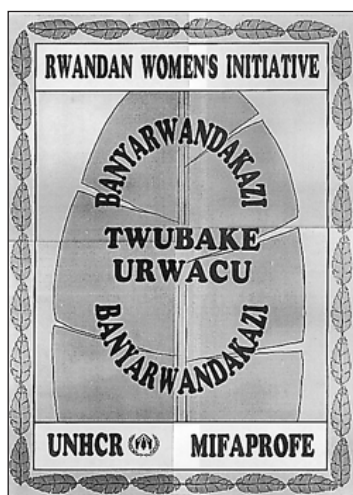
## 連合 連合・愛のカンパ

連合は、世界の中で貧困や飢餓、人権弾圧に苦しむ開発途上国の人々への支援や難民救済、子どもたちの社会開発活動への支援を行なうために1989年に「連合・愛のカンパ」を組織し、展開している。UNHCRの難民援助活動への支援も91年以來毎年続け、94年にはルワンダ難民等への緊急援助に多大な援助を行なった。今年も7月に贈呈式が行なわれ、ルワンダ難民・帰還民への支援として2000万円がUNHCRへ贈られた。

## 人類愛善会 「愛善基金」

人類愛善会は創立記念日（6月9日）のある6月に毎年「愛善基金」をUNHCR他に贈呈している。1994年にはこれに加え、「難民緊急援助基金」の窓口を設置して、ルワンダ難民への緊急支援を行なった。

今回は、昨年11月以降100万人をこえる難民が帰還したルワンダで特に女性の自立を支援するための「ルワンダ女性イニシアティブ」に200万円が寄付された。



ルワンダ国内でこのプロジェクトの広報に使われているポスター



## 創価学会青年平和会議 第18回 難民救済キャンペーン

今年10月2日、創価学会青年平和会議はUNHCRの難民援助活動を支援するために毎年行なっている難民救済キャンペーンを開始した。昨年のキャンペーンでは、アフリカ・大湖地域における緊急援助、旧ユーゴの難民、避難民の帰還や復興援助、そしてソマリア北西部での給水システムと小学校の修復、エチオピア西部での病院への支援、エチオピア東部でのハフィル・ダム建設、「ア

UNHCR



キャンペーンの支援を受けて7月に完成したハフィル・ダム(4ページ参照)の近くにあるラバツ難民キャンプの子どもたち。10月の雨でダムは満水となり、次の雨季までの水が確保された。

フリカの角」地域における援助活動など、合計約7700万円の支援が寄せられている。

## 石井好子さん シャンソンを通じて 難民援助を

4月4、5日、難民救済チャリティー「トワエモア」コンサートが開催され、約216万円が昨年に続き

UNHCRへ寄付された。今年は、石井好子さんがDJをつとめる番組「トワエモア」(TOKYO FM)が始まってから20周年記念にあたる。50年余りにわたり音楽を通じて世界の人々と交流を重ね、世界を舞台に活躍している石井さんの意思で、コンサートの

収益がUNHCRへ寄付された。

さらに7月に開催された「パリ祭」でもUNHCRへの募金が行なわれ、また、日本シャンソン協会からもUNHCRは継続的な支援を受けている。

## キャンプ・サダコの 体験記が本に 「難民と出会う —キャンプ・サダコ顛末記」

UNHCRの「キャンプ・サダコ」プログラムの参加者の体験記が11月に出版されました。「難民になるってどういうこと?」を行って、見て、考えた手記です。

印税はすべて難民のために使われます。



キャンプ・サダコ編集委員会編  
Z会ペブル選書10 増進会出版社刊  
定価：本体900円＋税  
問い合わせ先：増進会出版社  
電話0559-73-7117

## UNHCR駐日事務所の 名称変更のお知らせ

UNHCR駐日事務所は、業務の拡大と機構改革にともない197年6月20日付けをもって、名称が変わりました。

新名称

正式名称 国際連合難民高等弁務官  
日本・韓国地域事務所

なお、所在地・連絡先(電話・Fax)に変更はありません。また、郵便振替の加入者名もこれにともなって変わりますが、旧称でも受け付けています。

# 読む資料・見る資料

## さしあげます

### 季刊誌

「難民 Refugees」—— 難民問題の現状と保護・援助のあり方をめぐる情報誌。  
特集には難民保護と国際社会の対応、人道援助活動をめぐる将来の展望など、各層の視点を紹介します。

### パンフレット

- 1 難民問題のあらまし—— 難民問題の現状、問題解決のための対処とUNHCRの活動
- 2 難民女性とは—— 難民の8割をしめるのは女性と子ども。暴力の犠牲となりやすい女性たちの実態を取り上げます。
- 3「リーフレット」—— UNHCRの活動や難民問題の解決方法などを、イラスト入りで簡単に紹介しています。

「わたしたちの難民問題」—— 大学生などUNHCRの若いボランティアが中心となって高校生向けにつくった入門書。（「僕たちの難民問題」改訂版）

「難民問題の手引き」—— 「難民問題の現状」「地域別にみる難民問題」「UNHCRの活動」などを教師向けにまとめました。  
サイズ変形A5版

「難民の子どもたち」—— どうして難民になったのか、逃げる途中でどのような経験をしたのか、キャンプではどんな生活を送っているか、そして将来の夢など、子どもたちの声が聞こえてきます。小学生から高校生向け（20頁）

1. **ポスター 2種類**—— 世界の難民の子どもが描いた絵画から、アフガン難民（12歳）とスーダン難民（17歳）の作品2点を選んでポスターにしました。  
サイズA2（42×59cm）

2. **ポスターセット**—— 難民地図、UNHCRや難民などについての説明と写真で構成したセット。  
10枚一組。サイズA2（42×59cm）

### UNHCR 早わかり

UNHCR 早わかり（最新版1997年2月発行）  
UNHCRの概要

### ニュースレター

UNHCR News（現在の難民の状況とUNHCRの援助活動）

**募金箱**—— 難民援助の募金にご協力ください。  
ボール紙製 8.5×18×13cm  
詳しくはお問い合わせください。

## お貸しします

**展示用パネル**—— 文字、写真パネル、世界難民地図を合わせ20枚が一組です。（68×47cm）  
貸し出し希望期間、使用目的、主催者をお知らせください。（ご要望が多いため、2か月前にはお申し込み下さい）

### ビデオテープ

- 1（日本語吹替え版・字幕版）  
ほんのちょっと変えてみよう（14分）
- 2 日本語吹替え版）  
世界の難民はどこに（95分） 難民女性（13分）
- 3（日本・韓国 地域事務所制作）  
難民もみんな同じ地球人（19分）中学生向き

## お知らせ

UNHCR日本・韓国 地域事務所はホームページを開設しています。ぜひご利用ください。

<http://www.unhcr.or.jp>

## お問い合わせ先

UNHCR日本・韓国 地域事務所  
広報室

〒107 東京都港区赤坂 8-4-14

TEL03-3475-4882

FAX03-3475-4884

資料や募金箱は、基本的に無料です。ただし送料と資料枚数の多い場合はコピー代がかかります。広報室宛に、ご質問も含めて官製はがきでお申し込みください。できる限り着払い（宅急便または郵便小包）をお願いいたしますが、ご無理な場合、送料分の切手を、資料受け取り後、同封の受領証と共に広報室宛てにご返送ください。

UNHCRニュース NO.4  
1997年11月

発行

UNHCR日本・韓国 地域事務所  
広報室

郵便振替

口座番号：00130-4-59734

加入者名：UNHCR